

カモ目カモ科

コクガン

Branta bernicla orientalis Tugarinov, 1941

【選定理由】

本種（亜種）は、県内にはまれな冬鳥として渡来し、個体数は少ない。生息環境が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

【概要】

全長約60cm。全体に黒く、頸に不規則な白斑があり、下腹部から上・下尾筒は白い。国内では、北海道、東北地方に多く渡来し、西日本では少ない。おもに海岸の入江や内湾などで、アマモやアオノリなどを食べる。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖や中海周辺のほか、島根半島や隠岐諸島などでも記録がある。

【存続を脅かす原因】

生息適地の減少などが考えられるが、県内の渡来数は少なく、その状況の把握も十分ではないことから特定には至らない。

ミズナギドリ目ミズナギドリ科

オオミズナギドリ

Calonectris leucomelas (Temminck, 1836)

【選定理由】

隠岐諸島の無人島などでコロニーが確認されているが、場所によってはその数が減少している。特殊な環境条件に生息し、生息地が局限されていることから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

【概要】

全長49cm、翼開長1.2mの海鳥で、日本近海などの島で繁殖し、海洋をおもな生息場とする。昼間は、魚群を求めて群れで海上を飛び回り、魚を捕食する。地中に穴

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

を掘って繁殖する。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐郡知夫村の大波加島に大規模な集団繁殖地があり、星神島、沖ノ島などのほか、益田市高島が繁殖地となっている。

【存続を脅かす原因】

ネズミ類やカラス類などによる卵や雛の捕食など。

コウノトリ目コウノトリ科

コウノトリ

Ciconia boyciana Swinhoe, 1873

【選定理由】

1960年代に国内で繁殖するものは絶滅し、現在は、大陸産の個体がまれに渡来する。県内への渡来数は少なく、生息環境が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

【概要】

全長約110cm。体は白くて、翼の風切羽が黒い。嘴は太くて長く黒い。繁殖地は、シベリア南東部から中国東北部で、冬季は中国東南部へ渡る。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類（CR）

【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川や飯梨川河口周辺などで記録があるほか、隠岐（島後）では複数回越夏したことがある。大陸産のものと見られる個体のほか、野生復帰による放鳥個体も飛来している。

【存続を脅かす原因】

開発などによる生息適地の減少や農薬の使用による採食条件の悪化など。

ペリカン目トキ科

ヘラサギ

Platalea leucorodia leucorodia Linnaeus, 1758

【選定理由】

本種（亜種）は、国内に少数が渡来し、県内には1～2羽程度が渡来する。限られた湿地環境に渡来するなど、生息地が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

【概要】

全長約83cm。全身白く、しゃもじ形の嘴は黒く、上面に黄色部がある。クロツラヘラサギとは、目先の裸出部が狭く、目がはっきり見える点で識別できる。国内には、

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：情報不足（DD）

冬鳥または旅鳥として渡来し、干潟、水田、河川、湖沼などの湿地に生息する。

【県内での生息地域・生息環境】

冬鳥として斐伊川や飯梨川、高津川の河口部などに渡来する。

【存続を脅かす原因】

湿地開発、河川改修などによる生息適地の減少など。

ペリカン目サギ科

ササゴイ

Butorides striata amurensis (Schrenck, 1860)

【選定理由】

過去に繁殖していた場所で確認されなくなるなど、減少している可能性があるが、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

【概要】

国内には本亜種が夏鳥として九州以北に渡来する。九州南部から南西諸島では、越冬するものもいる。夕方から夜間にかけて盛んに活動するが、日中も活動する。水田や河川などの水辺で魚類や両生類、甲殻類などを捕食する。繁殖期には、水辺近くの雑木林、マツ、スギなど

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

の樹上に巣をつくる。

【県内での生息地域・生息環境】

夏季に個体が確認されることがあるが少ない。以前、江津市で繁殖していた場所があったが、現在はなくなっている。

【存続を脅かす原因】

河川敷の工事や、水辺の樹林地の伐採などによる生息適地の減少など。

ツル目ツル科

マナヅル

Grus vipio Pallas, 1811

【選定理由】

定期的な渡来地である鹿児島県などを除けば、本県は比較的渡来が多い県の一つである。新たな定期渡来地としての可能性もあるが、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

【概要】

東シベリア南部、ロシア極東南部のハンカ湖とアムール川流域、中国東北部、モンゴル東北部で繁殖し、中国南東部の長江下流域、朝鮮半島、日本で越冬する。国内の定期的な渡来地は鹿児島県だけであり、出水地方には

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

総個体の約4割が渡来している。

【県内での生息地域・生息環境】

渡りの時期に見られることが多く、単独または数羽のことが多い。出雲平野などで、まれに越冬する。

【存続を脅かす原因】

ねぐらや餌場環境の悪化、カメラマンによる追い回しなど。

ツル目ツル科

ナベヅル

Grus monacha Temminck, 1835

【選定理由】

定期的な渡来地である鹿児島県や山口県を除けば、本県は比較的渡来が多い県の一つである。新たな定期渡来地としての可能性もあるが、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

【概要】

ロシアのウスリー川東域からアムール川北側地域、中国北東部の一部などで繁殖し、国内には冬鳥として渡来する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【県内での生息地域・生息環境】

渡りの時期に見られることが多く、単独または数羽のことが多い。斐伊川河口部などでまれに越冬する。

【存続を脅かす原因】

ねぐらや餌場環境の悪化、カメラマンによる追い回しなど。

チドリ目セイタカシギ科

セイタカシギ

Himantopus himantopus himantopus (Linnaeus, 1758)

【選定理由】

本種(亜種)の県内への渡来数は少なく、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

【概要】

全長約37cm。体の上面は緑色の光沢をした黒で、ほかは白い。長くてまっすぐな嘴と、非常に長い脚が特徴。本亜種は、国内に旅鳥として少数が渡来するほか、各地で繁殖が確認されているが局地的である。湿地で昆虫や甲殻類、小型の魚類などを食べる。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【県内での生息地域・生息環境】

旅鳥として水田や休耕田、河川の河口部や湖沼の浅瀬などの湿地に少数が渡来する。宍道湖、中海周辺の水田などで毎年1～数羽が見られる。2003年4月には宍道湖西岸で25羽の群れが観察されたことがある。

【存続を脅かす原因】

湿地環境の減少など。

チドリ目シギ科

オオジシギ

Gallinago hardwickii (Gray, 1831)

【選定理由】

国内で繁殖する種で、生息地の減少などが危惧されている。中国地方で少数の繁殖例があり、県内でもその可能性があるが、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。広島県芸北町では繁殖が確認されていたが、近年は確認されなくなった。

【概要】

全長約30cm。タシギなどによく似ている。サハリンと日本列島で繁殖し、冬はオーストラリア東南部に渡る。繁殖期には、おもに本州中部の山地の草原、東北地方や

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

北海道の平地の草原に生息する。

【県内での生息地域・生息環境】

おもに渡りの時期に、水田などの湿地で観察されている。三瓶山では、ディスプレイフライトが観察されたことがある。

【存続を脅かす原因】

生息適地の環境変化など。

チドリ目シギ科

ホウロクシギ

Numenius madagascariensis (Linnaeus, 1766)

【選定理由】

国内では、おもに旅鳥として定期的に渡来するが、個体数は少ない。ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

【概要】

全長約61cm。長く下に湾曲した嘴が特徴。ダイシャクシギに似るが全体に褐色が濃く、腰と翼の下面が白くない。国内では、旅鳥として渡来し、海岸の砂浜、入り江の干潟、河口の砂泥地などで見られ、水田に入ることもある。長く湾曲した嘴を深く泥の中に差し込み、ゴカイ

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヤカニ類などを捕食する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内には干潟のような環境がほとんどなく、渡来数は少ないが、旅鳥として春と秋に河口部の砂泥地や水田などで見られる。

【存続を脅かす原因】

乾田化をはじめとする湿地環境の減少など。

チドリ目カモメ科

ズグロカモメ

Larus saundersi (Swinhoe, 1871)

【選定理由】

世界的にも局地的な分布をしており、個体数も限られている。県内では、冬季に少数が渡来するが、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

【概要】

全長約32cm。中国の黄海沿岸や朝鮮半島北部の日本海沿岸などで繁殖し、おもに中国沿岸部や台湾、日本で越冬する。国内には、九州を中心に四国や本州西部、沖縄県などに冬鳥として渡来する。干潟や河口の水辺で魚やカニなどを捕食する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【県内での生息地域・生息環境】

冬季に斐伊川河口や飯梨川河口などで、1～数羽が観察されている。

【存続を脅かす原因】

河川改修や開発などによる浅い水辺の減少、生息適地への頻繁な人の立ち入りなど。

チドリ目ウミスズメ科

マダラウミスズメ

Brachyramphus perdix (Pallas, 1811)

【選定理由】

本種は冬鳥として県下の日本海域に渡来する。近年確認されることが少なくなってきているが、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

【概要】

全長24cmほどで、ウミスズメとはほぼ同大。種としては、アリューシャン列島を中心に、東はカナダやアメリカの沿岸、西は日本沿岸に至る範囲に分布する。内陸部で樹上などに単独で営巣し、繁殖するといわれている。冬季、全国各地の沿岸海上などに南下し、魚類のほか甲殻類な

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

どを潜水して捕食する。

【県内での生息地域・生息環境】

日本海の海上や宍道湖・中海などで記録がある。半島部地先の海上や、隠岐航路の船上などで群れが観察される。

【存続を脅かす原因】

油の流出、魚網への絡まりなど。

チドリ目ウミスズメ科

ウミスズメ

Synthliboramphus antiquus (Gmelin, 1789)

【選定理由】

冬鳥として県下の日本海域に渡来するが、近年確認されることが少なくなってきている。確認が難しく、ランクを判断するに足る情報が得られていない。

【概要】

全長25cmほどで、嘴が短くて太く、眼の上後方に白線がある。北太平洋、千島アリューシャン列島、北海道天売島などの断崖の岩の上や、岩の割れ目などで繁殖する。冬季、沿岸海上などに南下し、魚類のほか甲殻類などを潜水して捕食する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

【県内での生息地域・生息環境】

日本海の海上や宍道湖・中海などの湖上に渡来する。半島部地先の海上や、隠岐航路の船上などでまれに観察される。

【存続を脅かす原因】

油の流出や海洋汚染、魚網への絡まりなど。

チドリ目ウミスズメ科

コウミスズメ

Aethia pusilla (Pallas, 1811)

【選定理由】

冬鳥として県下の日本海域に渡来することが分かっているが、その実態などは不明であり、ランクを判断するに足る情報が得られていない。

【概要】

全長15cmほどで、ウミスズメ類中もっとも小型の種。北方のチュコト半島、アリューシャン列島、プリビロフ諸島などで繁殖し、繁殖期以外はほとんど海上生活をしている。冬季、島根県沖の海上などに南下し、魚類のほか小型の甲殻類などを潜水して捕食する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

日本海の海上や宍道湖などに冬季、渡来する。隠岐航路の船上などから、海上に群れる姿が観察されることがある。

【存続を脅かす原因】

油の流出や海洋汚染、魚網への絡まりなど。

タカ目タカ科

オオワシ

Haliaeetus pelagicus (Pallas, 1811)

【選定理由】

本種はまれに渡来するワシで、個体数も少ない。生息環境が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

【概要】

巨大な黄色の嘴がよく目立つ大型のワシで、翼開長は2.3mにも及ぶ。ロシアのオホーツク海周辺やカムチャッカ半島で繁殖し、北海道を中心に冬鳥として渡来する。海ワシの仲間、魚類を主食とするがカモ類なども捕食

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

する。北海道では、エゾジカの銃猟死体を食べて鉛中毒を起こし、問題となっている。

【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖・中海周辺や海岸部、ダム湖などにまれな冬鳥として渡来する。

【存続を脅かす原因】

飛来する湖沼や海岸部の環境改変、カメラマンによる追い回しなど。

タカ目タカ科

ツミ

Accipiter gularis gularis (Temminck et Schlegel, 1844)

【選定理由】

食物連鎖の頂点に位置するタカの1種で、その生息は生態系が豊かであることを証明する。県内で繁殖している可能性もあるが、ランクを判断するに足る情報が得られていない。

【概要】

オスは全長約27cm、メスは約30cm。日本のワシタカ類の内でもっとも小型である。国内では、本亜種が九州以北で繁殖するが、西日本では繁殖記録が少ない。平地から山地の林に生息する。おもに小鳥類を捕食するが、昆虫や小型の哺乳類を捕食することもある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県内では、少数ながら通年の観察例があり、繁殖の可能性もある。

【存続を脅かす原因】

森林の伐採や開発、林相変化などによる生息適地の減少など。

タカ目タカ科

ハイタカ

Accipiter nisus nisosimilis (Tickell, 1833)

【選定理由】

食物連鎖の頂点に位置するタカの1種で、その生息は生態系が豊かであることを証明する。県内で繁殖している可能性もあるが、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

【概要】

オスは全長約32cm、メスは約39cm。国内には本亜種がおもに本州中部以北で繁殖し、冬期は全国で見られる。平地から山地の林に生息し、秋冬には平野部の農耕地やヨシ原にも現れる。おもに小鳥類を捕食するが、小型の

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

哺乳類も捕らえることがある。

【県内での生息地域・生息環境】

冬季に平地や農耕地などで観察されることが多い。夏季に山地などで観察例があり、繁殖の可能性もある。

【存続を脅かす原因】

森林の伐採や開発、林相変化などによる生息適地の減少など。

鳥類

タカ目タカ科

イヌワシ

Aquila chrysaetos japonica Severtzov, 1888

【選定理由】

県内では、ごくまれに観察されることがある。繁殖環境が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

【概要】

オスの全長は約82cm、メスは約89cm。本亜種は、日本および朝鮮半島に分布する。国内では、九州以北の山岳地帯に留鳥として生息しており、広い行動圏を持つ。個体数は少ない。主としてノウサギなどの哺乳類や鳥類、

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

爬虫類、両生類を捕食する。

【県内での生息地域・生息環境】

迷行または通過の可能性も含め、中国山地の県境付近などでごくまれに観察される。過去に営巣していたとされる記録がある。

【存続を脅かす原因】

生息適地の減少や生息地への人の接近など。

ハヤブサ目ハヤブサ科

コチョウゲンボウ

Falco columbarius insignis (Clark, 1907)

【選定理由】

県内には冬鳥として渡来するが、個体数は少なく、生息環境が局限されていることなどから、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る特性があるが、情報が不足している。

【概要】

オスは全長約28cm、メスは約32cm。チョウゲンボウより小さい。国内には、冬鳥として広い農耕地、干拓地、河川の草原など開けた場所に生息するが少ない。スピードのある飛翔でおもに小鳥類を捕食するが、ネズミ類や

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

昆虫、カエルなども捕る。

【県内での生息地域・生息環境】

冬鳥として、農耕地や河川敷などで見られるが、チョウゲンボウよりも個体数は少ない。

【存続を脅かす原因】

農耕地の改変や、河川改修などによる生息適地の減少など。

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧 I 類

絶滅危惧 II 類

準絶滅危惧

情報不足

スズメ目サンショウクイ科

サンショウクイ

Pericrocotus divaricatus divaricatus (Raffles, 1822)

【選定理由】

渡りや繁殖状況、生息環境ごとの個体数の変化などの詳しいデータが不足しており、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

【概要】

国内には2亜種が知られており、別亜種のリウキュウサンショウクイは、屋久島や南西諸島に留鳥として分布する。本亜種は、本州以南に夏鳥として渡来し、おもに山地の雑木林や広葉樹林に生息する。高い木のある広葉樹林に多く、樹林の上層部で活動し、繁殖期の初めを

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)

除いてあまり下層部へは降りてこない。「ヒリヒリッ ヒリヒリッ」と、特徴のある声で鳴く。

【県内での生息地域・生息環境】

夏鳥として渡来し、おもに山地の広葉樹林などに生息する。

【存続を脅かす原因】

森林の伐採や、林相の変化などによる生息適地の減少など。

スズメ目カササギヒタキ科

サンコウチョウ

Terpsiphone atrocaudata atrocaudata (Eyton, 1839)

【選定理由】

本種（亜種）は、近年観察される機会が多く、増加してきた可能性があるが、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

【概要】

オスは全長約45cm、メスは約18cm。ただし、オスの全長には、非常に長い尾が含まれる。国内には、夏鳥として渡来し、平地から低山の林に生息する。林床の比較的開けた広葉樹林や、スギ・ヒノキの植林地などの環境を好む。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

夏鳥として渡来し、低山地から中国山地にかけて比較的広く分布する。里山のスギ林などで観察されることも少なくない。

【存続を脅かす原因】

山地の開発や伐採などによる生息適地の減少、越冬地の環境悪化など。

スズメ目モズ科

アカモズ

Lanius cristatus Linnaeus, 1758

【選定理由】

近年、国内各地で生息数が減少しているとされる。県内では亜種シマアカモズの繁殖記録があり、貴重な例といえる。本種の現在の生息状況は十分に把握されておらず、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

【概要】

亜種アカモズは国内では夏鳥として北海道、本州、四国で繁殖し、亜種シマアカモズはおもに九州南部や南西諸島で繁殖する。本種は平地から山地の明るい林や低木のある草原などに生息する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【県内での生息地域・生息環境】

亜種アカモズは、まれに観察される。亜種シマアカモズは大社町で繁殖記録があるほか、三瓶山で観察例がある。

【存続を脅かす原因】

生息適地の環境変化など。

スズメ目ツバメ科

コシアカツバメ

Hirundo daurica japonica Temminck et Schlegel, 1845

【選定理由】

本種（亜種）は、夏鳥として県内に渡来するが、近年減少傾向にある。しかし、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

【概要】

全長19cm。ツバメよりもやや大きく、雌雄同色。頭から背は光沢のある紺色。目の後ろから後ろ首が赤茶色で、腰の橙色が名前の由来となっている。喉から腹までは、ごく薄い茶色で黒褐色の縦斑がある。国内には、夏鳥として渡来し、海岸から市街地の開けたところや農耕地、

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵6

丘陵地などに生息する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内に広く見られるが、営巣しているところは多くない。学校や庁舎などの大きなコンクリート製の建物に営巣していることが多い。

【存続を脅かす原因】

建造物の営巣に対する人為的な攪乱のほか、越冬地での環境改変など。

スズメ目ヨシキリ科

コヨシキリ

Acrocephalus bistrigiceps bistrigiceps Swinhoe, 1860

【選定理由】

本種（亜種）は、おもに本州中部以北の草原で繁殖し、県内でも繁殖が確認されている。しかし、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

【概要】

全長13cm前後で、スズメより小さい。国内には夏鳥として渡来し、普通は本州中部以北の草原で繁殖する。オオヨシキリと同じような環境に生息するが、オオヨシキリが草丈の高い密生したヨシ原で繁殖するのに対し、より草丈の低い草原に営巣する傾向がある。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

旅鳥として渡来するが、一部繁殖する個体も見られる。斐伊川河口部の河川敷の草原で繁殖した事例などがある。

【存続を脅かす原因】

草原の消滅、人の立ち入りなど。

スズメ目ムクドリ科

ホシムクドリ

Sturnus vulgaris poltaratskyi Finsch, 1878

【選定理由】

本種（亜種）は、国内では数少ない冬鳥または迷鳥とされるが、県内には定期的に個体群が越冬している。しかし、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

【概要】

全長22cm。ムクドリよりわずかに小さい。緑や紫色の光沢のある黒い体に黄白色の斑点が密にあることが特徴。国内では、本亜種が数少ない冬鳥としておもに西南日本に渡来し、農耕地などに生息する。ムクドリの群れ

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

の中に混じっていることが多い。

【県内での生息地域・生息環境】

飯梨川河口付近の農耕地に、10～20羽前後が越冬している。最近は、宍道湖西岸域でも秋冬に群れが観察されることがある。

【存続を脅かす原因】

農耕地における生息に適した環境の減少など。

スズメ目ヒタキ科

コルリ

Luscinia cyane bochaiensis (Shulpin, 1928)

【選定理由】

県内で繁殖している可能性が高いが、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。生息（繁殖）地が限られており、存続基盤は脆弱である。

【概要】

国内では主として本州中部以北で繁殖し、西日本での繁殖個体数は少ない。広島県や鳥取県では繁殖が確認されており、岡山県、山口県でも夏季にさえずりが確認される。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵6

【県内での生息地域・生息環境】

渡りの時期に、低山の林などで観察されるほか、夏季に中国山地の標高1,000m前後のササ藪のあるブナ林などで複数のさえずりが確認されており、繁殖の可能性が高い。

【存続を脅かす原因】

繁殖に適した森林環境の改変など。

スズメ目ヒタキ科

ノビタキ

Saxicola torquatus stejnegeri (Parrot, 1908)

【選定理由】

本種（亜種）は、おもに本州中部以北に夏鳥として渡来する。県内でも繁殖記録があるが、繁殖地が局在し、現在の繁殖状況もよく分かっていないため、ランクを判断するに足りる情報が得られていない。

【概要】

全長約13cm。国内では本州中部以北に夏鳥として渡来し、北海道では平地の草原、本州では山地の高原などに生息する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

渡りの時期に、平野部の草地や農耕地で通過個体が見られる。三瓶山や弥栄村の草原で繁殖の記録があるが、その後の状況や他地域の生息状況は十分に把握されていない。

【存続を脅かす原因】

繁殖適地の環境変化など。

スズメ目ヒタキ科

コサメビタキ

Muscicapa dauurica dauurica Pallas, 1811

【選定理由】

本種（亜種）は、夏鳥として県内に渡来するが、近年は繁殖記録のみならず、観察例も減少している。しかし、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

【概要】

全長13cm。国内では、北海道から九州までの全国各地に夏鳥として渡来して繁殖する。平地から標高1,000m程度まで分布し、落葉広葉樹林、雑木林、カラマツやスギ、ヒノキなどの人工林などに営巣する。木の枝にコケ

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵6

などで皿状の巣をつくる。

【県内での生息地域・生息環境】

夏鳥として山間部などに渡来する。密生した林より明るい林を好む。比較的大きな樹木がある公園で営巣した例もある。

【存続を脅かす原因】

繁殖に適した森林環境の改変など。

鳥類

絶滅
野生絶滅

絶滅
危惧Ⅰ類

絶滅
危惧Ⅱ類

準絶滅
危惧

情報不足

スズメ目ホオジロ科

クロジ

Emberiza variabilis Temminck, 1836

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵6

【選定理由】

本種（亜種）は、県内の中国山地で繁殖している可能性が高いが、ランクを判断するに足りる十分な情報が得られていない。

【概要】

繁殖分布はカムチャッカ半島、サハリン、日本で、ユーラシア大陸東部のごく限られた地域。国内では、おもに本州中部以北で繁殖するが、広島県で繁殖が確認されており、鳥取県で営巣の確認例がある。

【県内での生息地域・生息環境】

渡りの時期や越冬期には、平地や低山でも少数が観察される。夏季に、標高1,000m前後のササ藪のあるブナ林や広葉樹林などの複数の場所で、複数のさえずりが確認されており、近隣県の生息状況からみて繁殖の可能性が高い。

【存続を脅かす原因】

繁殖に適した森林環境の改変など。